

近畿地区短信

**JICA 地域別研修  
「仏語圏アフリカ臨床検査技  
術コース」に参加して**

近畿臨床検査技師会国際部の海外協力委員会は JICA 主催の 5 年計画「仏語圏アフリカ臨床検査技術コース」に参加協力しており、今年は 4 年目で 4 月から 10 月までの 7 ヶ月間の研修を行いました。

このコースの目的は仏語圏アフリカの国々の感染症検査の技術の向上を目指すもので、OB を含む近畿技の会員で研修計画を作成し活動しています。

活動内容は技術研修、啓発研修、病院実習・見学研修からなり会員が研修ヒヤリング、実習、講義、病院見学等を担当し、他の関係分野の協力得て行います。

まず各国の現時点の実情と検査法の把握を行い、修得したい点についてのヒヤリングをしてから研修に入りました。技術研修ではこのヒヤリングをもとに内容を企画し実習を行い、また病院実習では検査室で自身のアクションプランに沿って実習を行いました。

技術研修は朝 8 時 30 分から実習生が来る 10 時前までに当日のタイムスケジュールと実習内容の確認を行います。実習の物品については日本では調達できるが本国では調達不可能な物、例えばニクロム線などはないがゼムクリップはあるというようにできるだけそれぞれの国で調達できるものを使用し実習を進めます。日本での検査技術、検査手順に沿って行い、それから自分たちの検査方法、技術等の違いを質問するという形で進行します。

実習は仏語で進行します。1 人の実務委員は 2 人の研修生を受け持ちますが英語がほとんどだめで仏語しか理解してもらえません。質問やその回答については通訳の方に手助けをしてもらいますが、実習中のコミュニケーションはほとんどボデーランゲイジでした。「トレビアン」、「ボンジュール」などはわかるのですが英語の good、bad、big、small、one、two は仏語では？？？というように知らない・わからないという状況でした。



実習に対する研修生の行動はゆっくり・ゆったりとしていました。タイムスケジュール通りにはなかなか進まないことにあせる実務委員を尻目に研修生はマ

イペースで実習を行っていました。いつも時間に縛られている私たちの感覚とは全く違い、常にゆとりのある生活をしているのだなと思いました。また実習中にちょうどドラマダンに入り研修生の大部分はイスラム教徒で日中は水、物を口にしない現実をみて、良いか悪いは別にして規律正しく生活している姿を見て自分の日常は？と考えさせられました。来年は 5 年計画の最後の年になります。

近畿技のすべての会員の協力で仏語圏アフリカの国々の感染症検査の技術の向上にしっかりと寄与していきたいと思えます。

【奈良県立奈良病院 宗川義嗣】

\*\*\*\*\*

**裁判員制度に関する資料  
裁判員制度に関する世論調査**

内閣府大臣官房政府広報室より、裁判員制度に関する世論調査の結果が公表されています。裁判員制度は他人事ではありません。ぜひ、一読をお勧めします

**1. 調査の概要**

- ◆調査目的：裁判員制度に関する国民の意識を調査し今後の施策の参考とする。
- ◆調査項目：①裁判に対する関心等②国民の司法参加に関する認識③裁判員制度に対する認識④裁判員裁判への応諾意識⑤国への要望

- ◆関係省庁：法務省
- ◆調査対象：①母集団一全国20歳以上の者②標本数一3,000人③抽出方法一層化2段無作為抽出法
- ◆調査時期：平成21年5月28日～6月7日
- ◆調査方法：調査員による個別面接聴取
- ◆調査実施機関：社団法人中央調査社
- ◆回収結果：①有効回収数(率)一2,054人(68.5%)②調査不能数(率)一946人(31.5%)＝不能内訳＝転居94、住所不明34、長期不在90、一時不在348、拒否319、その他61<病気など>
- ◆性・年齢別回収結果：回収率(%)  
男性 952/1,467<64.9%>  
女性 1,102/1,533<71.9%>

	男性	女性
20～29歳	43.3%	58.2%
30～39歳	61.2	70.4
40～49歳	64.3	75.9
50～59歳	65.8	77.5
60～69歳	75.0	76.9
70歳以上	75.8	68.1

**2. 調査結果の概要**

**1) 裁判に対する関心等**

**①刑事事件に対する関心度**

日ごろ、新聞記事やテレビなどのニュースで報道される刑事事件についてどの程度の関心を持っているか聞いたところ、「関心を持っている」とする者の割合が 85.0%(「関心を持っている」37.5%+「有名な事件や自分の知っている事件につい

ては関心を持っている」47.5%)、「関心がない」とする者の割合が15.0%(「あまり関心がない」13.4%+「全く関心がない」1.6%)となっている。都市規模別に見ると大きな差異は見られない。年齢別に見ると「関心を持っている」とする者の割合は30歳代から50歳代で、「関心がない」とする者の割合は70歳以上でそれぞれ高くなっている。

**◇特に関心の高い刑事事件の内容**

日ごろ、新聞記事やテレビなどのニュースで報道される刑事事件について「関心を持っている」、「有名な事件や自分の知っている事件については、関心を持っている」と答えた者(1,745人)に、最も関心を持ったのはどんな犯罪か聞いたところ「殺人、強盗殺人、強盗などの凶悪犯罪」と答えた者の割合が75.4%、「暴行、傷害、脅迫などの粗暴な犯罪」と答えた者の割合が5.4%、「窃盗、詐欺などの財産に関する犯罪」と答えた者の割合が3.8%、「強姦、強制わいせつなどの性犯罪」と答えた者の割合が2.7%、贈収賄などの汚職犯罪」と答えた者の割合が9.9%となっている。性別に見ると「贈収賄などの汚職犯罪」と答えた者の割合は男性で高くなっている。年齢別に見ると「殺人、強盗殺人、強盗などの凶悪犯罪」と答えた者の割合は50歳代で高くなっている。

**②現在の裁判に対する問題点**

これまでの裁判の制度や手続、判決などに関していろいろな問題点が指摘されることがあるが、そのような意見のうち、そのとおりに思うものを聞いたところ、「これまでの裁判は時間がかかりすぎる」を挙げた者の割合が68.6%と最も高く、以下、「裁判所や裁判官は身近に感じられない」(47.7%)、「これまでの裁判は専門的すぎてわかりにくい」(42.1%)、「これまでの裁判は、一般の常識に合わないところがある」(22.2%)などの順となっている。(複数回答上位4項目)

都市規模別に見ると「裁判所や裁判官は、身近に感じられない」、「これまでの裁判は一般の常識に合わないところがある」を挙げた者の割合は大都市で、「これまでの裁判は専門的すぎてわかりにくい」を挙げた者の割合は町村で、それぞれ高くなっている。性別に見ると「これまでの裁判は時間がかかりすぎる」を挙げた者の割合は男性で、「裁判所や裁判官は身近に感じられない」、「これまでの裁判は専門的すぎてわかりにくい」を挙げた者の割合は女性で、それぞれ高くなっている。年齢別に見ると「これまでの裁判は時間がかかりすぎる」を挙げた者の割合は40歳代、60歳代で、「これまでの裁判は専門的すぎてわかりにくい」を挙げた者の割合は30歳代、40歳代でそれぞれ高くなっている。

以下 8 ページへ続く・・・